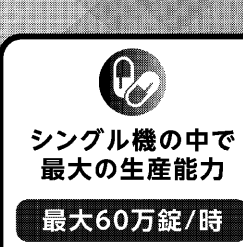




シングル機の常識を超える 驚異の生産能力

CYGNUS-K

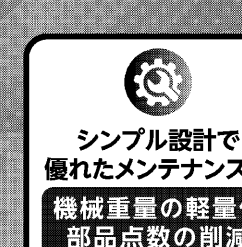
回転盤交換式高速打錠機



シングル機の中で
最大の生産能力
最大60万錠/時



長時間運転でも
安定稼働
発熱・騒音改善



シンプル設計で
優れたメンテナンス性
機械重量の軽量化
部品点数の削減



株式会社 菊水製作所

本社工場 〒604-8483 京都市中京区西ノ京南上合町104番地
東京営業所 〒101-0044 東京都千代田区蔵前町2丁目2番3 第3機井ビル3階
【営業品目】
打錠機／フレイト成形機／セラミック成形機／樹脂成形機／カーボンブラシ成形機／造粒機／混合・練合機／真空造粒コーティング機／その他製薬化学工業用機械

TEL.075-841-6326(代) FAX.075-803-2077
TEL.03-3252-5996(代) FAX.03-5295-9065



マイクロメータ、いまだ進化中



特設サイト

精密測定で社会に貢献する
株式会社ミットヨ
<https://www.mitutoyo.co.jp>

高速・高精度デジタルマイクロメータ
QuantuMike

日本機械学会（JSME）は8月7日を「機械の日」、8月1日から7日までの1週間を「機械週間（メカウィーク）」と定めている。機械の日や機械週間に合わせて、子ども・学生向けイベントや「機械遺産」の認定式などが行われる。JSMEはこれを通して、機械技術の価値を広く社会へ伝えるとともに、教育や人材育成につなげていく。

8月7日 機械の日

「機械遺産」認定式 きょう開催

機械技術者——役割明確に

七夕は技巧上達を祈念する中国の儀式「乞巧奠」に由来し、奈良時代、日本に伝来した。「たなばた」の読みは、この日に神にささげる御衣を織るための織機「棚機」が由来とされる。

JSMEは2006年に七夕の中暦である8月7日を「機械の日」と制定した。機械技術が社会や産業の健全な発展にどのように役立つかを広く社会とともに思考し、機械技術者の果たす役割を明確にすることで、社会からの理解を一層深めることを目指す。

我々の生活や文化は、工作機械、農業用機械、建設機械、食品機械といった産業機械に加えて、輸送機械、サービス用・娯楽用機械などの多様な機械に支えられている。

七夕は技巧上達を祈念する中国の儀式「乞巧奠」に由来し、奈良時代、日本に伝来した。「たなばた」の読みは、この日に神にささげる御衣を織るための織機「棚機」が由来とされる。

JSMEは2006年に七夕の中暦である8月7日を「機械の日」と制定した。機械技術が社会や産業の健全な発展にどのように役立つかを広く社会とともに思考し、機械技術者の果たす役割を明確にすることで、社会からの理解を一層深めることを目指す。

我々の生活や文化は、工作機械、農業用機械、建設機械、食品機械といった産業機械に加えて、輸送機械、サービス用・娯楽用機械などの多様な機械に支えられている。

産業の発展に貢献



機械の日や機械週間には、子ども・学生向けイベントを多数開催（2025年に川崎重工業明石工場で行われた風車作りの様子）

代技術者の育成支援につなげることを目的としている。

7日13時からは、鉄道博物館（さいたま市大宮区）で同館の見学会が開催される。館内の見どころや展示車両について、館長が自ら案内する。

また同日14時半から、同会場のつづくホールで「2026年度機械遺産認定式」が行われる。機械遺産は同会が07年に始めた認定制度。歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関わる歴史的遺産を認定する。

今回は①国立科学博物館の「瓶原式高速度カメラ I型・II型」②ミットヨの「ミットヨ製マイクロメータ」③ニデックインスツルメンツの「国産オルゴール・ムーブメント」④三菱電機ビルソリューションズの「交流一段速度モーターを用いたエレベーター巻上機」⑤菊水製作所の「国産初の回転式打錠機 No. 8A-2」⑥JSMEの「機械学会『蒸気表及び線図』（昭和9年初版1刷）」の6件が認定された。

JSMEは昨年、DEI（多様性・公平性・包摂性）宣言を掲げた。多様な価値観や、異なる社会的・文化的背景、専門性を持つ人材が相互に尊重し協働することは、持続的な発展と革新的な発想の創出へとつながる。多様性を力に変え、機械工学の新たな可能性を切り拓くことを基本方針として、同会はDEIの理念の下、学会活動に取り組みていく。

2026年度「機械遺産」認定企業

ミットヨ

ミットヨ製マイクロメータ

菊水製作所 国産初の回転式打錠機 No. 8A-2

ミットヨは1934年に国産マイクロメータの事業化を志し、研究を重ね、37年に発売した。精密測定を通じてモノづくりの現場を支えてきたことが評価され、機械遺産の認定へとつながった。

同社の最新の高速・高精度デジタルマイクロメータ「カンタマイク MD-E」は、標準的なマイクロメータに比べて、4倍速いスピンドル移動を実現した。スピーディーな移動と最大許容誤差JMP E 2 5 1 5 5 の優れた精度を両立。全数検査や測定項目数の多い対象物（ワーク）の測定においても、作業の効率化と品質の向上に貢献する。



現在、粉末を圧縮成形することにより作られる錠剤は医薬品の主流をなす。

菊水製作所は1932年に、国内初の回転式打錠機「No. 8A-2」を開発した。明治期から大正期にかけて、錠剤は家内生産が多く、単発式打錠機で作られていたため、当時の製薬業界の要望に応えた。

1時間当たり2万錠以上の生産が可能で同様の流通によって、製薬産業における「大量生産方式」の実現が可能となった。以後、現在に至るまで日本の製薬業界と打錠機は進歩を続けている。同機はその源泉の一つとなった。



多様な知見と技術を融合

ある「機械遺産」の認定の中歴にあたる8月7日は、日本の機械技術の歴史の価値を顕彰し、産業の発展に寄与した重要技術者を次世代へ継承する業を展開しています。

今年も新たな機械遺産を認定し、その価値を広く社会へ伝えるとともに、教育や人材育成にもつなげてまいります。

機械工学はこれまで人々の豊かな暮らしを支えてきましたが、気候変動、エネルギー問題、インフラの老朽化、少子高齢化など、複雑化する社会課題に対し、今まで以上に幅広い役割を担うことが求められています。

またAIをはじめとするデジタル技術の急速な進展は、産業や社会のあり方そのものを大きく変えつつあります。こうした時代においては、個々の専門分野に閉じることなく、多様な知見と技術を結びつけ、新たな価値を創出することが重要です。

当会は2027年に創立130周年を迎えます。この節目を次の飛躍への起点とし、次の10年を見据えたビジョンと、その実現に向けたアクションプランを策定してまいります。

第一に、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）や循環経済、人と機械の協調に加え、新たな課題も視野に入れ、社会課題解決へ取り組んでまいります。



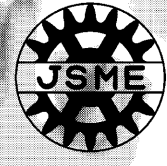
日本機械学会では七夕の「乞巧奠」に由来し、奈良時代、日本に伝来した。「たなばた」の読みは、この日に神にささげる御衣を織るための織機「棚機」が由来とされる。

JSMEは2006年に七夕の中暦である8月7日を「機械の日」と制定した。機械技術が社会や産業の健全な発展にどのように役立つかを広く社会とともに思考し、機械技術者の果たす役割を明確にすることで、社会からの理解を一層深めることを目指す。

我々の生活や文化は、工作機械、農業用機械、建設機械、食品機械といった産業機械に加えて、輸送機械、サービス用・娯楽用機械などの多様な機械に支えられている。

ごあいさつ 日本機械学会 会長 高木 周

日本機械学会



技術者の現場力を讃える—— 「優秀技術者表彰」

日本機械学会では2025年度より、法人会員（特別員）に所属する実務技術者の功績に光を当てる「優秀技術者表彰」を創設しました。

本表彰は、設計・製造・品質管理・保守保全・運転調整など、現場の最前線で活躍する技術者を対象とし、論文発表や学会活動によらずとも、機械工学の発展に顕著な貢献を果たした方々を称えるものです。

この表彰制度は、そうした実務技術者の努力と成果を「ブロンズ（実務経験5年以上）」「シルバー（同10年以上）」「ゴールド（同15年以上）」「プラチナ（同20年以上）」の4段階で評価し、社会へ発信していく新たな仕組みです。推薦は特別員からで、表彰された方には会長名による表彰状が贈られ、企業主催での表彰式も可能です。

貴社の技術者に、誇りとモチベーションを。「見える表彰」で、社内外への信頼とブランド力を高めましょう。

詳しくは、日本機械学会 WEB サイトをご確認ください。



持続可能な未来を築くための日本機械学会の挑戦

日本機械学会は、持続可能な社会の実現に向けて、機械工学の知見を活かした取り組みを進めています。特に、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、人と機械の協調・連携の3つの分野で、学会横断的な活動を展開しています。

カーボンニュートラルへの貢献 >>>

学会横断テーマ「持続可能な社会の実現に向けた技術開発と社会実装」

サーキュラーエコノミーの推進 >>>

学会横断テーマ「循環経済の実現に向けた機械工学の役割」

人と機械の協調・連携の進化 >>>

学会横断テーマ「機械と情報通信の融合で実現する人間中心の未来社会」

毎年9月の年次大会（全国大会）にて、上記テーマのフォーラムを開催しています。

<学会横断テーマ フォーラムアーカイブ>
<https://www.jsme.or.jp/about/about-jsme/gakkaithe/>



これらの取り組みを通じて、日本機械学会は持続可能な社会の実現に向けた技術的課題の解決に挑戦し、未来を担う技術者の育成と社会貢献を果たしています。